



北公民館

『みなぎる地域パワー』

分館ア・ラ・カル・ト

平成20年度へ翔

大間

分館長 郷田光生

大間地区を二分して流れる泉川（おもて川）を中心に考えた伝承行事を存続させたい。

昔から清水がこんこんと湧き出し、水量も豊富で、この清流と調和した風景、風光明媚さは、この地方では類を見ない。

この川に多くの緋鯉を泳がせたい。有明公園の夜景、お盆の火流し、うら盆の灯ろう流しなど、その他、大間特有の玉峰祭り（焼け祭り）厄除けや息災を願うものに、住民こそって参加したいと考えている。

上高柳

分館主事 赤坂宏作

今、地域で頑張っているのは高齢者である。混住化と核家族化が進みコミュニティが崩壊寸前で、地域に対する愛着を継承してくれる人が少ない。

この状況こそ自主防災意識の醸成が不可欠である。地域の防災・災害対応は、周辺住民の助け合いで対応すること

が重要である。防災活動が地域活性化の起爆剤として、子どもからお年寄りまでの三世代が、ゲーム感覚で参加できる自主防災訓練を要としてコミュニティの形成を構築していきたい。

恵久美

分館主事 大政隆俊

例えば『どんと焼き』の時、私物の餅つき器を運び込み「ついでに米を洗ってこか」となる。大きすぎ、甘い；；今日のうちに；；、テントの位置は；；でも当日の定刻には、儀式は肅々と開始され、大成功。これがいつものパターンだ。

最初の計画は姿薄、臨機応変、和やかムードで談話・談笑、気づいたものが即実行。皆が先導で目指す港へまっしぐら。そんな楽しい舞台裏。すばらしい恵久美の役員たちである。

昌農内

分館主事 喜安長徳

現在、社会環境の変化によ

り、地域の希薄化が進んでおり、地域の繋がりを再構築するため、伝統芸能・伝承文化の保存・継承、防犯・防災活動を通じて連携や助け合いなどを活発に実施し、世代間交流を図り、活性化させることが必要である。

このように、これからの公民館活動は、地域住民の多様な学習要求に添えていくとともに、人間関係を取り結び、住民相互の豊かな関係づくりが構築できるような支援することが必要と考えている。

西高柳

分館主事 森田勝廣

西高柳としては、三大大行事『運動会・芸能大会・文化祭』を中心に地域づくりを進めていく。

特に、この三大大行事は地域の多数の人々が参加、最も身近に地域内の三世代交流ができる行事であると思う。

昔は小さな集落であったが、今や400を超える大所帯に変革、地域内で交流する場も少なくなつた今、行事を通じて人と人との交流は、地域づくりに最も必要であると思う。

今後は、新企業地頭を立案し、地域づくりを推進していきたいと考えている。

西古泉

分館主事 稲田輝宏

○ふれあい活動の展望
当地区は、今春オープンする「エミフルMASAKI」に隣接し、大いなる発展が見込まれる。

その勢いに負けないように、これまでの三大大行事である春の運動会、盆踊り夏祭り、それに秋の文化祭と、従来の行事を踏襲しつつもその内容をリフレッシュして、ふれあいを深めてゆき、少子高齢化に優しい公民館活動を推し進める。

また、対話と協調を深め、分かりやすい活動とし、誰もが気軽に来場、参加してもらえるようにしていきたい。

北川原

分館主事 宮内信丈

○女性評議員の誕生！
今年、女性評議員が信任され誕生した。北川原では今までになかったことである。区の行政・諸行事に対し女性の立場での考えや意見、またソフトな対応など、活躍を住民の皆さんと、熱い期待をもつて見守っていきたい。

○防災組織2年目に向かつて
昨年度、自主防災組織発足の年は、活動も広報活動、機材調達で終わった。今年度は、

防災組織行動の年とする。防災活動、特に消火訓練、救急訓練など急を要するものから訓練を実施する。

“地域の安全は地域の皆で守ろう”と、住民の防災意識の高揚を図っていきたい。

塩屋

分館長 三木共一

塩屋地区は、北に重信川、南に国近川・東レ、西に瀬戸内海・企業団地を有し、地区住民は約240戸、企業は約90社の発展中の地区である。公民館活動においては『気楽に参加の交流イベント』を

目指し、地区、企業一丸となつて諸行事に取り組んでいる。

また、専門部会では盆栽部、グラウンドゴルフ部、料理部があり、特に、盆栽部の菊は、文化祭の花形として特筆に値する。

分館組織としては、専属分館長を置き、体育部、婦人部、文化部に愛護部を加えて、地区役員共々、鋭意活躍中である。

活力は、分館の調和と発展から...好きです!! 北公民館

今年度もよろしくお願ひします。